

会 議 録（案）

会 議 の 名 称	令和6年度第1回枚方市生涯学習推進審議会
開 催 日 時	令和7年2月10日（月） 10時00分から 11時30分まで
開 催 場 所	サンプラザ3号館5階（旧市民ギャラリー）
出 席 者	渥美公秀会長・富岡量秀副会長・市川まや委員・位田真由子委員・岡村富美代委員・末岡妙子委員・田中与士彦委員・芝田かおり委員・萩原雅也委員
欠 席 者	所めぐみ委員
案 件 名	（1）生涯学習推進基本指針進捗状況等について （2）生涯学習交流センターの開館について （3）生涯学習市民センターにおけるWi-Fi設備の活用について
提出された資料等の名	資料1-1 生涯学習推進基本指針進捗状況について 資料1-2 主な事務事業・所管課一覧表 資料1-3 生涯学習推進基本指針進捗状況調査表 資料2-1 生涯学習交流センターの開館について 資料2-2 生涯学習交流センター・市駅前図書館利用案内 資料2-3 グランドオープニングイベントパンフレット 資料3-1 生涯学習市民センターにおけるWi-Fi設備の活用について 資料3-2 フリーWi-Fiの利用手順 参考資料1 枚方市生涯学習推進基本指針 参考資料2 「生涯学習施策」推進に関するアンケート
決 定 事 項	・生涯学習推進基本指針進捗状況（令和5年度実施）について確認を行った。 ・生涯学習市民センターの課題について審議を行い、委員の意見を踏まえ、今後のアンケート調査や施設運営に生かしていくこととした。
会議の公開、非公開の別及び非公開の理由	公開
会議録の公表、非公表の別及び非公表の理由	公表
傍 聴 者 の 数	0人
所 管 部 署 （ 事 務 局 ）	観光にぎわい部 文化生涯学習課

渥美会長	< 1 開会 > それでは定刻になりましたので、ただ今より、令和6年度 第1回生涯学習推進審議会を開催いたします。 本日、審議会を進めていくに際しまして、会議の公開のルールや会議録の対応などについては、従来どおり「本審議会の傍聴については、原則として認めるものとし、会議録は要点筆記で作成し公表させていただきたい」と考えております。 よろしくお願いいたします。 本日は、案件としまして、（１）「生涯学習推進基本指針進捗状況等について」、（２）「生涯学習交流センターの開館について」、（３）「生涯学習市民センターにおける Wi-Fi 設備の活用について」をご審議いただきたいと思います。 それでは、事務局から本日の出席委員の報告等をお願いいたします。
事務局	本日の委員の出席状況ですが、委員は10名中9名のご出席をいただいておりますので、枚方市附属機関条例第5条第2項に規定する「2分の1以上の出席」を満たしており、この審議会が成立していることをご報告申し上げます。
渥美会長	< 2 案件 > それでは、議案に入ります。次第の2「案件」をご覧ください。 まず、<案件（１）「生涯学習推進基本指針の進捗状況等について」>を議題とします。事務局から説明をお願いします。
事務局	資料1－1「生涯学習推進基本指針進捗状況について」 資料1－2「主な事務事業・所管課一覧表」 資料1－3「生涯学習推進基本指針進捗状況調査表」 に基づき説明。
渥美会長	この説明につきまして、ご意見、ご質問等がありましたらお願いします。
末岡委員	このアンケート調査ですけれども、もちろんこの形でしかできないということは十分理解できますが、生涯学習市民センター利用者などに対するアンケートとして、用意された事業に来られた方、常に利用されている方に対するアンケートですから、それなりの満足度があるのは当たり前であって、来ない方々に対してどうやって生涯学習を進めていくかがこの審議会のポイントにもなっていくと思います。よって、このアンケートは、これでよろしいのですが、それ以外の形でどうやったら広げていくことができるのかという視点が欲しいと思います。 例えば、各生涯学習市民センターには活動委員会があって、そこで活動内容を考えていらっしゃると思います。私も若い頃は公民館を利用させていただいて、その頃に活躍していた人たちがそのまま活動委員会に入っているといった方も割と多いような気がしています。場所によっていろいろ違うでしょうけれど、なかなか若い方や新しい方々を取り込むことができていないということが、活動委員会の現状となっていると思います。私の周りの方にとどのぐらい生涯学習市民センターを利用しているのかと聞いてみると、月1回、2回利用するという返事でしたが、大抵土日に偏ってきますし、かなり絞り込まれた活動になりますし、特定の人特定の場所を取り合っているように思います。 このアンケートは、そうではない活動というものをどうやったら引っ張ってくるができるか、与えられたものに対するものではなくて、自分たちで考

	えてやりませんかみたいなアンケート項目にはなっていないと思います。アンケートそのものが「今の状況は学ぶ者同士のつながりを支えることができますか」「学びの成果を活用できる仕組みができていますか」みたいなことは書いてありますが、もっと新しいやり方での生涯学習の進め方、今の生涯学習市民センターの使い方を大きく変えるきっかけになるような問いかけにはなっていないのではないかという気がしました。 支援を必要としていたり、学校に来なかったりする子どもたちが増えていきます。大人でも支援が必要と思われる人たちがいて、そういった人にこそ生涯学習が必要なのではないかと考えています。それが枚方市の生涯学習の仕組みの中でできているのか。学ぶ人たちを大事にする枚方市は素晴らしいと思っていますが、漏れている子どもたち、大人たちがあまりにも多いのではないかと心配しています。
渥美会長	ありがとうございます。議論で大事な点だと思いますが、アンケートの対象者が利用対象者しか見ていないということで、来ていない人の意見こそ重要ではないかということです。それから、活動に関しても若い人を取り込めていないということで、要するにもう少し拡張するにはどうしたらいいのか、アンケートのほうで広めていったらいいのか、ほかに手があるのかということです。このことについて今何か考えておられることがあれば事務局から説明をお願いします。
事務局	今回のアンケート用紙につきましては、今までもずっと定点観測ということでやっていますので、引き続きこれはこれで続けていきたいと考えております。 また、今後生涯学習市民センターに来られていない方に対してどうアプローチしていくかというのは大事な視点かなと考えています。今でも生涯学習市民センター以外の場所で、例えばひらかた市民大学などでもこのアンケートを配らせていただいていますので、生涯学習市民センターを利用している方以外にも一定アプローチはしているところがありますが、引き続きそういった方へのアプローチについては検討していく必要があるように考えております。
末岡委員	20 年程前に、婦人学級、後の市民学級という学習の場があった頃は、枚方市の社会教育がすごく盛んな時代で、市民活動がすごく活性化していました。今、枚方市では社会教育部がそもそもなくなって、総合教育部に統合されてなくなり、社会教育に対する意識が薄くなってしまったと認識しています。それはそれで別の形での活性化が進めばいいのですが、昔の婦人学級なり市民学級は、年間 10 万円お渡しして、年 10 回学びに関して好きな内容で開催してくださいというものでした。こちらでお膳立てしたものに「さあ入ってらっしゃい」ということではなく、自分たちがやりたいこと、課題だと思うこと、それを企画することができたんです。市民がそのようなもっと自由な発想でできる事業展開があってもいいのではないかと思います。今最初に説明があった基本指針にある「生涯学習とは」、これをどのように解釈していくかというのも、昔と今では考え方、楽しむ内容、つながり方も変わってきています。例えばネット環境で遠くの人と繋がったり、世代を超えていろいろな人と交わることができる推し活が学びの場に入ってもおかしくないと思います。以前の市民学級のように、好きなことをやっごらんみたいなものを生涯学習として推進していったらいかがでしょうか。案外中高生あたりがやってくれるかもしれないかと期待するものです。
渥美会長	ありがとうございました。今のご意見に対して事務局から何かありますか。

事務局	公民館時代から生涯学習市民センターという流れの中で、市民の皆さんの生活も変わってきているのかなと思います。そのような中で、どういう形で生涯学習市民センターがサポートできるのか、このことについてはまた後ほどの案件でもありますW i - F i のことや、新しい交流センターができたことや、活動委員会の皆様からいろいろご意見をいただいている中で、利用者がだんだん高齢化していることに対して、センターが変わっていかなくてはならないということを踏まえて、皆様からご意見等をいただけたらなと思っております。
岡村委員	私は現場にいる者として、20年ぐらい前から生涯学習市民センターの活動委員会の委員をやっています。当時は公民館、教育委員会の社会教育にあったので、法律的に福祉的な部分が多かったのですが、それが市長部局に移管されたことによって生涯学習市民センターに変わりました。昔は「枚方テーゼ」といって、社会教育に関する日本全国から見本となるものがありました。公民館から生涯学習市民センターに変わるに当たって、活動委員みんなが、公民館を利用してきた者として一番言いたかったのは、使用料を払うことが問題ではなく社会教育の中に置いておいてほしいということでした。法律が変わること、根本的な考え方が変わることに一番抵抗感があったわけです。 活動委員会というのはボランティア組織です。生涯学習市民センターには、指定管理者の事業と活動委員会の事業があります。活動委員会では、仕事をしている人のことを考えて土日に会議をしています、それでも、子どもがいる方というのはなかなか参加しにくいですし、共働きの方も多いので、活動委員の募集をかけても希望者が来ないのが現状です。活動委員会の事業というのは、活動委員に何をしたいのかアンケートを取りながら、どんな事業をするのかを考えています。今年度の3月の終わりに活動委員会の事業としてモンゴル料理をしますが、昨年、馬頭琴とモンゴルの舞踊に関する事業をしたときに通訳をしてくださったモンゴルの方がたまたまモンゴルの料理店をしていて、しかも国立馬頭琴楽団の通訳をされて、モンゴル大使館に勤めていたという方なので、モンゴルの話をしながらモンゴル料理を体験してもらうということができんじゃないかということで交渉をしました。交渉するときは、その人の店に行って、食事しながらおいしいですね、これを生涯学習市民センターに来てやっていただけますかとお話するので、その料理を食べた経費は自己負担です。活動委員会というのは、時間は自分の融通をつけて行動ができますが、それに伴う費用は自己負担というところが一番大きいかもしれません。 事業をしていくということはいろいろなものを見聞きたいと思うので、コンサートに行きますし、芝居も見に行きますが、費用は自己負担です。これがよかったよとみんなに話しても、全員が賛成しなければ成立たないというのが現状です。なかなか自分が見聞きたものを、同じ時間を共有していない人に説得するというのは難しいですね。百聞は一見にしかずとはいったもので、一緒に体験しないと、みんなが呼ぼうかという事業にまで発展するのは難しいことだと思います。 でも、この間も話合いの場に新しく来た人が楽しいと言ってくれました。新しい人が来てくれたことが非常にうれしかったですし、できれば子どもを連れたお母さんが来ていただけると、いろいろな年代の意見は聞けるかなという気はします。活動委員はどちらかというと後期高齢者に近づいてきている人が多いのですが、楽しい場であることは確かです。どなたでも来ていただけたらと思います。
事務局	活動委員会のご意見については、またそういう機会にお伺いさせていただこ

富岡副会長	うと思いますので、よろしくお願いします。 今お二人の話を聞いて、そういう背景があるんだなというのを教えていただきました。ありがとうございました。 そのことも踏まえまして、資料１－１と資料１－３、それぞれ１点ずつ感じたところを述べさせていただきたいと思います。最初に１－１のアンケートですが、これは項目がいっぱいあるので、恐らくこれから分析されると思いますが、年代別で見たら恐らく偏りが出るだろうなと思います。その分析をしていただくということが１つと、要は来ていない、あるいは極端に少ない年代があるかもしれないということを思っています。 それから、資料１－３のところで、いろいろな資料、いろいろな事業がある中で、今ある１つの視点で、ずっと並べられていると思うんですが、例えば、データの取扱いで並べ方、あるいはカテゴリー分けをちょっと工夫してみるとか、開催場所ごとにまとめてみるとか、あるいは開催内容によってまとめてみたときに、何か見えてくるものがあるのではないかと思います。あとは、かなり人数が多いところというのは、多分学校を巻き込んでいるということもありますよね。そういうところでアンケートをやったときに、面白い内容だったりすると、例えばそのサテライトを生涯学習市民センターでやってもいいわけです。サテライト版で、好評だったものをセレクトできたりもするんじゃないかなと思います。あるいは、先ほどおっしゃっていた中で面白いなと思ったのは、子どもたちが企画をしてやるといったアイデアとか、あるいは保護者のアイデア、そういった分析、あるいはカテゴリー分けをしてみると、もしかしたら見えてくるものかもしれないですから、せっかくこういうデータがあるので、その辺をいろいろ工夫していただいたとき、見えてくるものがあるかなと感じました。
渥美会長	ありがとうございます。私もアンケートをずっとやってもらっていて、時系列で並べられる非常に貴重なデータだと思いますので、今ある項目はそのままでもいいと思うのですが、まずは今ご指摘がありましたように１回細かく分析をしてみると、今のようにご意見をいただいたときに数字上こうなっていますと答えられると思いますし、それから問３や問４のような自由記述のところは、分析すると面白いと思います。 あるいは、委員からご指摘いただいたようなことを問かけのようにして問５をつくって、実際聞いてみるというのもいいのかなというふうに思いました。せっかくのアンケートですから、前からやっていることを大事にしつつ、少し改定したり分析したりして、今のようなご指摘はどれもなるほどと思う話なので、現状どうかという点を踏まえて、お考えいただければと思います。 それからこのアンケートのＱＲコードは、ホームページなどにも出しているのでしょうか。このアンケート用紙を受け取った人だけが見れるものなのでしょうか。
事務局	センターだよりやホームページにも載せていますので、アンケート用紙を受け取った人以外でも回答できるようになっております。
渥美会長	アンケートはもっといろいろな方に答えてもらえようになればいいと思います。 それでは、次に＜案件（２）の「生涯学習交流センターの開館について」＞事務局からご説明いただければと思います。よろしくお願いします。
事務局	資料２－１「生涯学習交流センターの開館について」

	資料２－２「生涯学習交流センター・市駅前図書館利用案内」 資料２－３「グランドオープニングイベントパンフレット」 に基づき説明。
渥美会長	この説明につきまして、ご意見・ご質問等がありましたらお願いします。
末岡委員	以前に生涯学習交流センターに立ち寄ってみたんですが、広々としているなと感じた覚えがあります。いい感じの雰囲気で、図書館との切れ目がないあたりのつくりがすばらしいと感じました。 それで考えると、各地域にある、例えば楠葉生涯学習市民センターでは、２階は学生たちが割と自習に使っています。今学校でもタブレットを使った勉強というのが多くなって、タブレットで物を読んだりすることが多くなっている現状があると思いますが、人間はやっぱり紙で本を読むのってすごく大事なことです。２階にも本を置いて、図書と市民活動の切れ目のない感じ、その雰囲気を各生涯学習市民センターの中でもつくっていけないんだろうかと思いました。
事務局	指定管理者にもご協力いただきまして、図書館と生涯学習市民センターのイベントをやるときには、それに関連した書籍をまとめて閲覧していただくというような取組はしていただいているところですので、楠葉生涯学習市民センターの指定管理者にもその旨、御意見があったことをお伝えさせてもらおうと思います。ありがとうございます。
岡村委員	さだ生涯学習市民センターでは、２階に漫画を置いています。三国志の全巻があって、すごく面白いんです。ただ、センターごとの立地条件と建物を考慮したときにどこまで同じことができるかということだと思います。
事務局	岡村委員のおっしゃるように、センターごとにそれぞれ違いはあります。
岡村委員	さだ生涯学習市民センターでは、今まで１階の図書館の中に置かれていた受付が２階に移動して、それだけでも利用者にとっては非常に便利になっているので、こういうことでもセンターごとに違いが出てきていますよね。
渥美会長	そういうことも考慮していくというのはいいことだなと思って聞いていました。
市川委員	私も生涯学習交流センターを利用させていただいているんですけども、やっぱり場所が分かりにくいなと感じました。私はパーキンソン病の方を対象とした、全ての方に開かれている椅子に座ってやるバリアフリーのダンスのワークショップをやっているのですが、歩行器とかを使われる方がいらっしゃることがあって、１０時から１１時に毎回開催していますが、１０時より前に入ろうとしたら、私でも入り方が分からないぐらいでした。それをどうしたかということ、枚方市駅の東改札口に集合して、みんなをピックアップするというやり方をしたんです。それでも予約せずに直接来た方が迷われてしまいました。これは商業施設さんをお願いするしかないかもしれないですけど、分かりやすい何か目印が欲しいです。それから、生涯学習交流センターは９時からオープンで、商業施設は１０時からオープンということは私も知らなくて、当日初めて知ったので、その周知を、新しい登録団体にアナウンスして欲しいと思います。

	商業施設が開いていたら、今度は店がいっぱいあり過ぎて、どこにエレベーターがあるのか分からないためというのがあって、近いんだけどすごく遠かった印象です。直通で、雨にぬれなくて、バリアフリーですし、部屋はとてもいいんですが、そこだけが少し残念に思いました。サンプルザ生涯学習市民センターのほうに分かりやすかったです。
渥美会長	その辺りは市としても管轄ではないと思うんですが、何かありますか。
事務局	この件に関しましては、文化生涯学習課以外にも、5階、6階に入居している市の機関の共通の悩みになっておりまして、オープン当初から人を立たせる等取組はしています。大分馴染んできてはいますが、指定管理者にも、案内図など工夫して作っていただいたりはしているところです。 特に初めて利用される方については、丁寧にお知らせするように指定管理者には情報共有します。
渥美会長	今回はオープン時間の問題でしたが、そもそもそれはどこかで協議しないといけないことだったという、要は仕組みの問題だと思います。
末岡委員	6階にあるまるっとこどもセンターも、エレベーターによっては、降りたときに壁しか見えなくて、ぐいっと回り込んだら入口があるというところがあるんです。エレベーターを降りたときに分かるような図面とか、こちらですといった矢印を置けないのかと聞いたら、共有部分になるので枚方市では置けないということでした。
事務局	共有部分については、管理組合の規定がありますので、その規定に則らないといけません。
末岡委員	枚方市も共生社会を目指すなら、分かりやすく床に矢印を入れるとか、こっちに來たい人はこの矢印に沿って行ってくださいぐらいの表示を入れるよう要望すべきだと思います。
渥美会長	ありがとうございます。
萩原委員	先ほどのところに遡ってなんですけども、資料を拝見した中で、あくまで利用者アンケートと書かれていたので、これは利用者の方の満足度を測っているものだなと認識していたんですが、それで間違いなかったですか。
事務局	そのとおりです。
萩原委員	そういうことですよね。そもそも利用されていない方のアンケートというふうに設計されていないと思うので、もし利用されていない方の意向を聞くということであれば、別のアンケートを市全体ですることが必要になってくるのかなと思います。それがまず1点目です。 それと、改めて参考資料の生涯学習基本指針を見させてもらおうと、これがつくられてから社会変化の中で一番大きいのは、生涯学習、社会教育で特につながりづくりについての基準というのがすごく高くなっていると思うんです。中央教育審議会の答申でもつながりづくりのことが取り上げられていますが、つながりづくりをどうされていくのかということに、今後、力点を置いていくべきじゃないかなと思います。 そのときに見落とされがちで、私は最近すごく大きいなと思っているのは、

	市役所、指定管理者を含めた行政の側と市民とのつながり、その視点が欠けてしまうと、市役所にあまり影響のない範囲でつながってもらうということだけがつながりづくりに見えてきて、実はコミュニティ形成とかがつながりづくりで一番大きい要素は、行政と市民とのつながりで、そこが膨らんでいかないとなかなか地域全体の活性化というところに向かわないと思うので、その点では先ほどもご意見がありましたけど、昔の公民館で非常に近かったものが疎遠になったと、もしそういう印象を持っているのであれば、つながりづくりに取り組まれるのもいいのではないかと思います。現在、ほとんどの生涯学習市民センターは指定管理者が運営されていると思うので、指定管理者にぜひ市民とのつながり、指定管理者の職員の方がいろいろな市民の顔を知って、市民の活動に対してどういう支援が必要かということを知ることが肝になっているし、その部分を積極的に市のほうが働きかけるということが重要だと思います。 それがもし見えてくると、先ほど以前は委託事業の形で予算を渡されて、それで自由にやられたということがあると思いますけど、それとは別の形で、より現場に近いところで何か新しい市民の活動に対する具体的な支援だったり、あるいは利用者同士のつながりはどうやって生むのかということに対してのアプローチであったりが出てくるんじゃないかと思います。その部分が今のつながりづくりのところであまり想定されていないような気がするので、ぜひ施設の側、単に利用者を受け入れたりする関係ではなくて、より市民に対してアクションを起こすとか、市民のいろいろな要望を聞いて、それを市に伝えるといったそういう関係ができてくればいいのかなというふうに思います。新しい交流センターに期待されているのもそういうところかなと思うので、ぜひここを拠点として、新しいもののつながり、行政を含めて生まれてきたらいいなと思いました。以上です。
会長	ありがとうございます。
末岡委員	指定管理者に対しての生涯学習の理解度を深めるための研修のようなことというのはされているんですか。
事務局	研修というわけではありませんが、指定管理制度に沿って、年2回モニタリングを実施していますし、日々事業を行う場合については、市と相談をさせていただいております。
渥美会長	続きまして、＜案件（3）「生涯学習市民センターにおけるW i - F i 設備の活用について」＞、事務局からご説明いただきたいと思います。
事務局	資料3－1「生涯学習市民センターにおけるWi-Fi 設備の活用について」 資料3－2「フリーWi-Fi の利用手順」 に基づき説明。
渥美会長	この説明につきまして、ご意見、ご質問等がありましたらお願いします。
岡村委員	このW i - F i については、機械にちょっと疎かったので、センター長に設定いただきまして、私たちでも非常に楽に使えています。 今若い人は、音は CD デッキではなくてスマホで流せるんですね。そうすると、会場によって今までW i - F i が使えず利用できなかったものが、使えるようになって、3月8日の人形劇フェスティバルではきっと喜ばれるかと思っています。

渥美会長	ありがとうございます。Wi-Fiの利用方法について、確かに音楽はありますね。
末岡委員	スマホで、Wi-Fiを利用するのであれば簡単にできるけれども、パソコンで利用する際は、ちょっと手間がかかってややこしくて、結局スマホにテザリングしてパソコンを開いている人もいましたが、若い人はこんな戸惑いなく、全然問題なく使えるとは思いますが。
岡村委員	分からなかったら指定管理者の方がすぐに教えてくれてやってくれますよ。
富岡副会長	Wi-Fiを使うというのは、ある意味当たり前なんですけど、どういう使い方を行政の方は想定されているのかというところが1つあるかなと思うんです。人が集まるというと子育て関係だと思うんです。逆に言うと、若い世代でも子育て関係だと集まっているいろいろなものをやる人が多いので、今までやらなかった人たちが出てきたりするという意味では、子育て関係はまず1つニーズがあります。 だけど、それ以外の若い人たちというのは、どんなニーズがあるのか、あるいは、そこを狙うのかというところがあるので、狙わないという選択肢もありますし、もっと子育てとか子どもたちというふうに特化したほうが逆に言うと分かりやすいし、あるいはそういう環境を整備すればいいということがあると思いますけれど、ただ若い世代というと広すぎるので、じゃあ若い世代の人たちは学生なのか、若いビジネスパーソンなのかあるいは未婚の人たちといったときに、恐らく想定されているのは、ここに来て何か講座を受けるというのを想定されているんですよね。だけどそれってニーズがあるのかというと、僕はあまりないような気がするんです。 それよりも、例えば、音源さえあればダンスをやる場所が欲しいという若い世代も結構いると思うんです。でも、それってある意味、学校や大学でもあったりする。それ以外のところで考えたときにも、要はスペースさえあればいいわけです。スペースとWi-Fiだけあればいい。あるいは、何かサークル活動で使うというときも場所さえあればいい。でも、そこに講座は必要ない。そこで講座代を払いたくはない、場所代だけ払いたいというニーズもあったりするときに、どういうニーズに応えていくかを想定するかだと思うんです。その辺も含めてニーズに応えるということもあるでしょうし、個人的な感覚で言うと、先ほど萩原委員も言われたようにつながりということを考えれば、やっぱりフェイストゥフェイス、対面というのがとてもいいと思いますけど、やっぱりネット社会でいろいろな情報を取れるという状況になったときに、講座というようなニーズで来てくださいということにどこまで若い世代が来るかというと、ちょっとクエスチョンがつくかな、あるいは工夫が必要かなというふうには思います。
末岡委員	そこを自分たちで講座を組み立ててごらんというような、好きに使ってごらんという事業は、魅力はないですか。
富岡副会長	そういうほうが面白いと思います。だから、何か固定された何とか講座をやりますというのではなくて、要は企画スペースとそれに対して支援をしましょう、いろいろ集めてごらんといったときに、例えば学生が子どもたちのために、こんな講座をやってみようというのも1つ面白いと思います。
末岡委員	中学生が小学生に教えるということも結構ありなんですよ。

富岡副会長	それもあると思います。いろいろな他年代という観点では、逆に言うとスペースと、それを支える支援があればいい。逆に講座よりも、そういうようなことがどこまで想定されていいのかどうかにもよりますし、どの辺を想定するかにもよるかなと思います。 あと最後に1点だけ、本を置くというのはとても面白いなと思って、これはご参考までにですけど、大丸京都店の7階のレストランスペースの真ん中にスペースがあって、そこに漫画がずらっと置いてあるんです。あるいは、大阪モノレールの南茨木駅に本を置いていますよね。例えば本を置くという考え方も、いわゆる管理ということはどう考えるかで、置こうと思えば置けるし、何かしらやりようはあるのかなというふうには思いました。
渥美会長	ありがとうございます。我々の経験の中で、Wi-Fiが何に使えるのかなと思っていたんですけど、遠くの方に出張費までは払えないというようなときに、Wi-Fiがフリーだとその会場は使いやすいですね。東北の被災地の方とか、向こうとWi-Fiでつながれますので、講座を開くときも直接の声が聞けたり、実際に中学校同士交流したり離れた場所とやり取りするときも、Wi-Fiを借りていけないといけないというのはそれだけ経費もかかりますので、導入されているというのは非常にやりやすいと思います。
事務局	ありがとうございます。導入したばかりですので、これから環境整備して、活用していただくというところで検討していきます。
渥美会長	そうですね。若い方でしたら何かいい案があるのかもしれないですね。
末岡委員	やっぱり生涯学習でも流行りに乗ることは大事だと思うんです。枚方は例えば人形劇の聖地であるように、何らかの新しい魅力の1つになっていって、若い人たちもWi-Fiを使って、生涯学習市民センターを自由に使って、こんな盛り上がり方をして、いろいろな世代の人とつながっているんだというような場所になってくれないかなという希望を持っています。
渥美会長	ありがとうございます。 それでは、全ての委員さんにご意見を聞けたわけではありませんけれども、またこの場ではないところでもご意見をいただけたと思いますので、一旦これで閉会に向かいたいと思います。 事務局で閉会をよろしくお願いします。
山門次長	最後に私から一言御挨拶させていただきます。 (次長挨拶)
事務局	本日の会議録につきましては、事務局で案を作成した後、委員の皆様にご確認いただきまして、その結果を会長と調整した上で確定して、公表をしていきたいと思いますので、どうぞ最後までよろしくお願いいたします。以上です。
渥美会長	ありがとうございます。 それでは、これにて生涯学習推進審議会を終了したいと思います。本日は、お疲れさまでした。